



嘉義旧刑務所

監獄の歴史だけじゃない、 外にも広がる生きた博物館

嘉義舊監獄は、日本統治時代の1921年に建てられた刑務所で、1994年まで使われていました。修復工事を終えて2011年に獄政資料館としてオープンし、獄舎、病舎、工場、看守所などが往時のままの姿で保存されています。中心にあたる看守棟から、煉瓦造の囚人房を見通す通路が放射状に3本伸びている配置は、パノプティコンと呼ばれ、日本の網走刑務所や奈良少年刑務所にも採用されています。道路を隔てて南側に広がる一角には、刑務所職員の官舎だった木造平屋（一階建てのこと）の住宅が約90戸建ち並んでいます。「宿舍群」と呼ばれるエリアです。ここは多くが空き家になり荒れ果てていましたが、2015年から南華大学の陳正哲教授らが嘉義市とともに再生の計画を立て、空き家再生事業がスタートしました。外観はそのまま、内部は大胆にリフォームする。その際に、嘉義の主要産業だった林業をテーマとし、木工のワークショップができるアトリエなどが次々と生まれています。

SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_south/299/



エリア

嘉義市

テーマ

歴史

政治

建築

10 人々の不安をなくそう



学 び の ポ イ ン ト

1.

孔子廟とは何ですか？

どんな施設、インフラ、工場なども、建物ひとつだけで成り立つものではありません。さまざまな用途の建築が結びついて機能を果たします。刑務所も同じこと。ここには、日本統治時代の刑務所の施設群が、全体として欠けることなく残っている、そのことがたいへん貴重なことなのです。構造も注目してほしいポイントで、多くの建物は壁を煉瓦で積み、その上に木造の屋根を架けています。屋根の骨組みは三角形を基本形とするトラス構造。林業都市としての豊富な材料、大工さんの手仕事、そして構造力学の叡知をそこに見ることが出来るのです。

2.

建築にはどのような特色がありますか？

日本では珍しくない木造住宅。実はそれ自体が台湾では貴重な存在なのです。高温多雨でシロアリの被害も大きい台湾では、昔から煉瓦で造る家が多く、壁も柱も木で造る建築様式は日本統治時代に普及したものでした。和風瓦の屋根、高い床、引違い窓、畳と床の間、そして雨淋板（ウーリンパン／杉板を斜めに重ねて張った外壁）などのデザインが、日式住宅の特徴です。